

「やりたいことを実現する手段」としての「議員になる」という選択肢

竹田風子 浦幌町議会議員

私が浦幌町に転居したのは二〇二〇年五月です。直前までは札幌で働いておりましたが、顔の見える関係性を築き、地域の方と関わる暮らしがしたいと考え、縁あって浦幌町に転職と同時に転居しました。町内のコミュニティカフェにて幅広い町民の皆さんと交流する中で浦幌のことをますます好きになりました。

会話をしていく中で、特に年配の方から暮らしに対する不安の声も数多く聞こえてくるようになりました。「友人が帯広に引っ越して行ってしまった」「遠方の友の訃報を聞いて、夜一人で泣いていた」「そんな話を聞くたびに、聞いている私も寂しく感じました。だんだんと私の中に「生まれ故郷に對しそんな思いを抱いてほしくない。皆さんにはもっと笑ってほしい。一緒に笑って生きていきたい」という思いが湧いてきました。

小さい町ということもあり、暮らしの中で町議会議員と関わる機会が多くありました。特に、二〇一九年の統一地方選挙で初当選した沼尾昌也議員とは年齢が比較的近く、会う度に「次の一般質問、何を聞くんですか」などと尋ねました。私は元々生活困窮者支援に興味があり活動をしていたので、浦幌町の現状を教えてもらいました。

「そんなに町や政治に関心があるなら自分で聞く立場になればいい」

何気ない沼尾議員からの発言を受け、「自分が議員になる」という選択肢があることを初めて意識しました。

それからたまに、その発言を思い出すようになりました。けれど、どうやってなるんだろう、という疑問は全く拭えませんでした。公務のおおよその日数は。現在の仕事と掛け持ちは可能なのか。選挙に必要な準備やかかる費用はどのくらいかかるのか。選挙ってどうやってやるものなのか。議員になる、そのために選挙に出るといふその二つは自分から離れたところにポツンポツンと点在していて、線のようにつながってはいませんでした。さらに、私は浦幌に移住して一年未満です。これからの四年間しっかり町民の方と関係を作り、次の選挙に向けて準備をするのが良いと考え、まずは議会について知るために「議会モニター」に応募しました。

しかし、選挙期間が近づいてくるにつれ、考えは変わっていききました。動くならすぐの方が良いのではないかと。議員になることで自分にできることが増えるのなら、今回立候補するべきではないか。四年間で町民との関係を築くことによって立候補を断念するかもしれない。

二日間悩みました。その間に、沼尾議員に直接選挙に向けて必要なものや準備を聞き、疑問は一

つずつ解けていきました。「議員になる」「選挙に出る」というバラバラだった点たちがだんだんと線になり、ようやく道として見えてきました。駄目で元々じゃないか。ならば真っ直ぐに思ったとおり進んでみよう。

立候補を決定したのは三月三〇日でした。議会モニターの委嘱式が四月五日へと迫っていたため、すぐ辞退の旨を伝えました。選挙まで一ヶ月を切っており時間はありません。移住して間もない私の後援会長を引き受けてくれそうな人はおらず、後援会を作らないことにしました。全ての書類を一人で用意し、責任者の名前も自分の名前を使いました。それは慣れない作業でしたが、そのおかげで私は自覚をしっかりと持つことができ、立候補したことは私にとって本当に良い経験となりました。

地位や名誉が欲しくて議員になったわけではありません。私を大切にしてくれる町内の方々に對して私も責任のある行動を取りたい。そして皆さんのためになることをしたい。町民からのちよつとした疑問を調べ、自分の足で確かめ、答える。議員になる以前に比べると、なった今の方が確実にできることが増えました。

難しいことや悩ましいことは多々あります。ですが、それさえ引き受けたいと思って立候補したのです。大変なことを引き受ける立場になれて良かったと実感しています。

二年前、浦幌町に引っ越すとはつゆほども思っていないませんでした。一年前、自分が選挙に出るとは想像もしていませんでした。これから先のことも全くわかりません。ですが、四年間でできることは限られていると思います。精一杯勉強し、さらに次の四年へと繋げていきたいです。皆さんのために、精進して参ります。

へたけだ ふうこ